

働く喜びを支える 35年の取り組み

社会福祉法人 清光会

ささゆり作業所 支援課長 川村 智子

ささゆり作業所の概要

○基本情報

- ・所在地 : 泉佐野市
- ・指定年月日 : 平成21年4月1日
- ・定員 : 就B 40名
生活介護 20名
- ・利用者数 : 就B 47名 (R8.4.1現在)
生活介護 22名 (R8.4.1現在)
- ・職員数 : 19名 (R8.4.1現在)
- ・利用者の主たる障がい種別 : 知的障がい、精神障がい等

○ささゆり作業所での主な作業

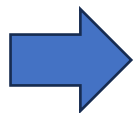
- ・泉佐野市の地場産業であるタオル作業



プリント作業について



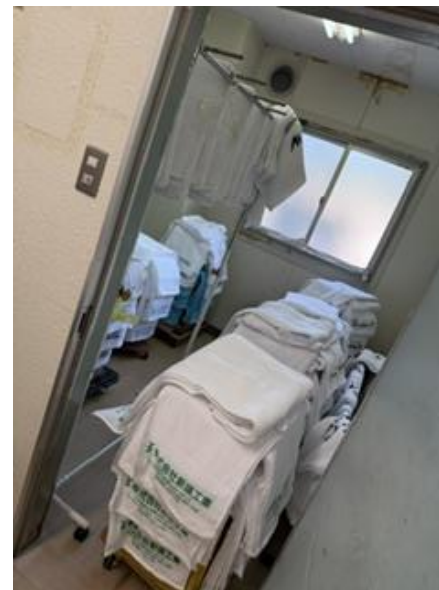
線に合わせて生地を置く



足元のペダルを踏む



インクが減ると、
自身で流れたインク
を上げる



プリント終了後は
約60℃の乾燥室で
インクを乾かす

タオル加工作業について



たたむ



のしにタオルを合わす



のしを巻く



袋入れ



のしポリ完成



束ね



束ね完成



梱包

タオル作業以外の作業

エル・チャレンジさんより委託されている外部の除草、清掃業務にて、前年度は約104万円の収入がありました。ご利用者1～3名が活動しており、毎年コンスタントに収益に繋がっています。



工賃向上への取り組み

平成7年頃までは、タオル加工などの内職作業が中心で、工賃も多くありませんでした。

ある時、企業の名入れタオルを見たことをきっかけに、
「自分たちでもプリントができるのではないか」
「利用者の仕事の幅を広げられるのではないか」と考え、
印刷機を1台導入したところから始まりました。

その後…

印刷機を扱える利用者の育成を進め、補助金の活用も行いながら台数を増やし、現在では印刷機7台をフル稼働させています。

タオルプリントはタオル作業（加工、プリント）の生産活動収益の65%を占める主力事業となりました。

プリント作業ご利用者：7名
タオル加工作業ご利用者：40名

令和7年度生産活動収益

生産活動収益全体 34,859,148円

プリント作業収益 22,994,726円→全体の66%

タオル加工作業収益 10,306,822円→全体の30%

その他軽作業収益 1,117,940円→全体の4%

タオル業者にとっても、プリントから加工までを一括で依頼できる点は、外注の手間や運搬コストを減らせる魅力となりました。

また、コロナ期の受注減や業界の高齢化・人手不足による廃業増加を背景に、実績ある事業所として口コミが広がり、新規顧客も増加しました。

また、情勢を見ながら価格改定を行い、単価の交渉にも応じてもらっています。

タオル業者との繋がり

これまで、閑散期や繁忙期のやり取りの中で、閑散期に作業が少ない時は、担当者の方に連絡をし、作業を分けてもらえないかの交渉をしたり、また、繁忙期では閑散期に助けてもらったことのお返しとして、多少無理をしてでも業務を引き受けるようにしています。持ちつ持たれつの関係で現在も成り立っています。

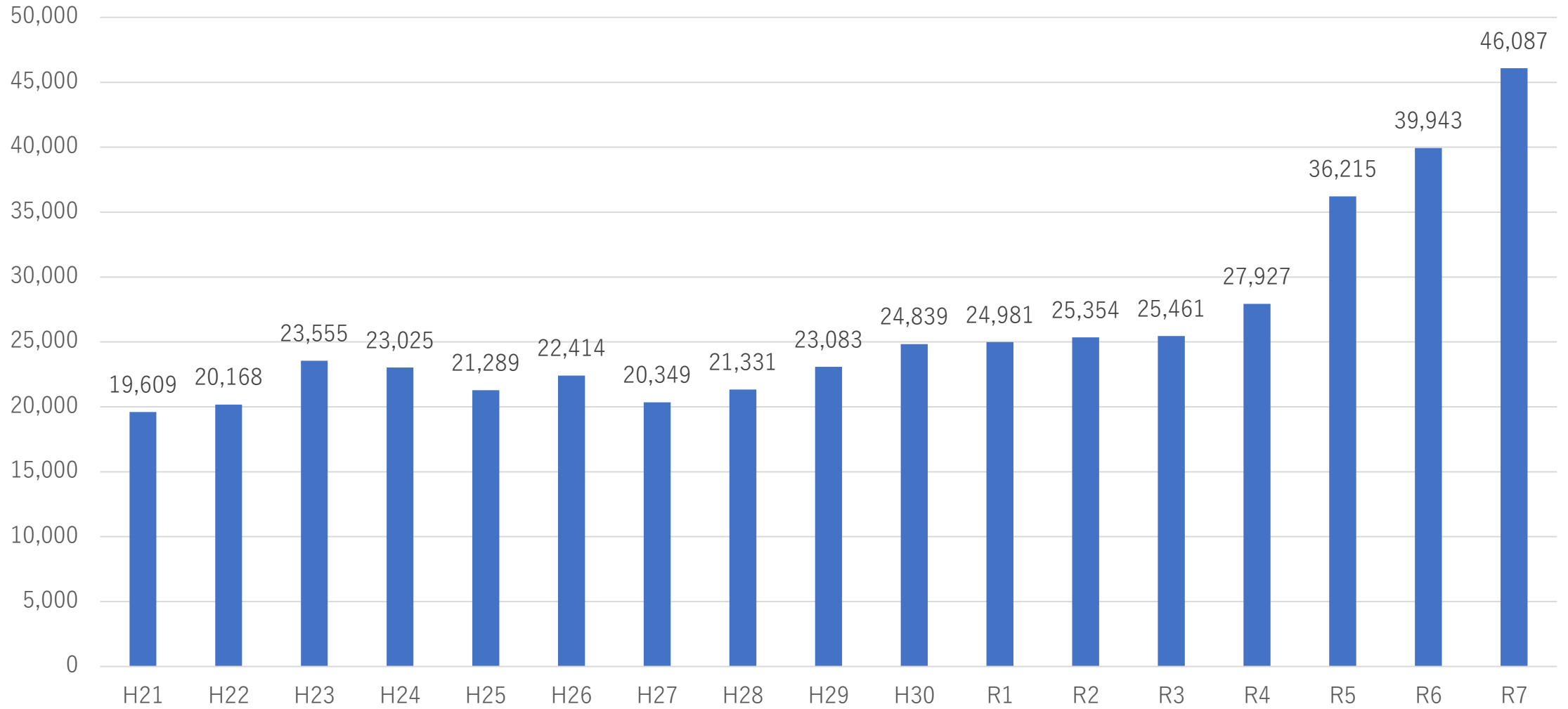
工賃向上の取り組み2

年始挨拶の名入れタオルの受注が秋から年末にかけて集中します。

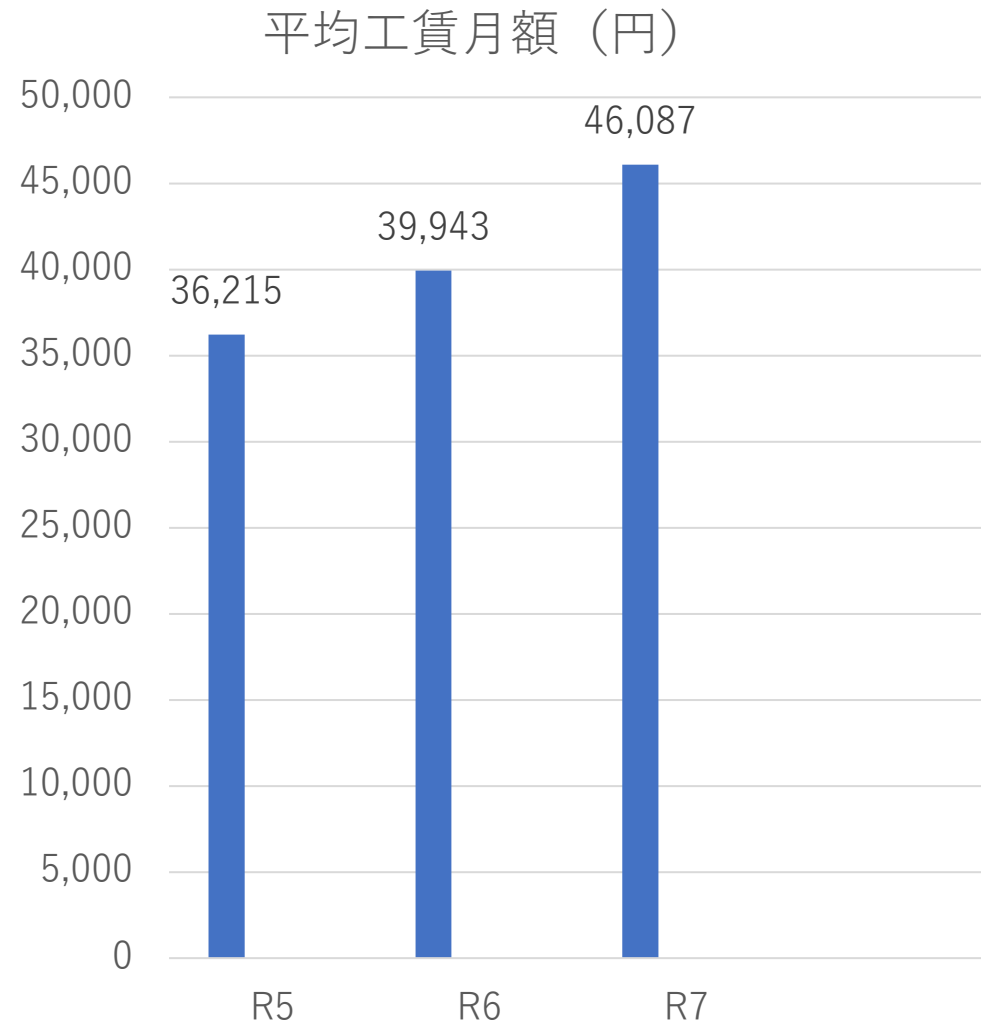
それ以外の次期は閑散期となるので単価の低い内職でしのいでいましたが、名入れタオルのプリントが可能になったことで、「このノウハウを活かせば、通年で需要のある旅館やホテルへのタオル販売ができる」と気づき、工賃向上のために名入れタオル販売の新事業を平成16年4月に法人内で立ち上げました。

立ち上げ当初は、仕入れ代などの経費が嵩み苦戦しました。そこで、小ロット対応などを売りに、関西一円の旅館、ホテル、温泉などに営業を続けた結果、現在タオル販売事業は約150社と取引し、工賃向上に繋がりました。

平均工賃月額（円）



R5年からR7年の分配金増加について



R5年からコロナ禍、高齢化、人手不足により、プリント業者が廃業したことで、受注が増え、通年で繁忙期に近い状態になっています。

また、R6年度より報酬改定にて生活介護は時間での区切りが出来たため、就Bもそれにともない、作業終了時間を延長したために増加となっています。

工賃向上の取り組み3

定期的に工賃規定を見直し、各種手当を支給しています。

その中でも、一番多くの生産収益を上げているプリント作業では、今年度も手当が大幅に上がりました。

ここに至るまでに、ディーセントワークを目標として取り組んできました。

ディーセントワークの取り組み

ディーセントワークとは、「働きがいのある人間らしい仕事」と訳されています。

就Bの事業所では、
「尊厳」「働きたい気持ち」「働く喜び」「質の高い教育と訓練」
「対価としての工賃（給料）」「社会参加」というキーワードをもとに7つの基本的な考えを示されています。

ディーセントワークを目指すことで、障がいのある人が働く喜びや一生懸命働いた対価としての工賃を得ることができます。

工賃をもらうことで、次の楽しみに繋がり、嬉しそうにしているご利用者の姿を見るのは、我々支援者としてはとても嬉しいことであり、支援者の働きがいにも繋がるのではないかと思います。

就Bの事業所でディーセントワークを目指すということは我々支援職のディーセントワークにも繋がっていると言えるのです。

ディーセントワーク

福祉用語ではなく世界共通の考え方です。始まりは1999年に国際労働機関の当時の事務局長が提唱したことがきっかけで、日本にもその考え方が浸透しています。

日本ではディーセントワークを雇用政策の重要目標として明記されています。働き方改革や最低賃金の引き上げなどもディーセントワーク実現の一環とされています。

それに伴い、ささゆり作業所でも工賃規定を定期的に見直し、改善をしています。

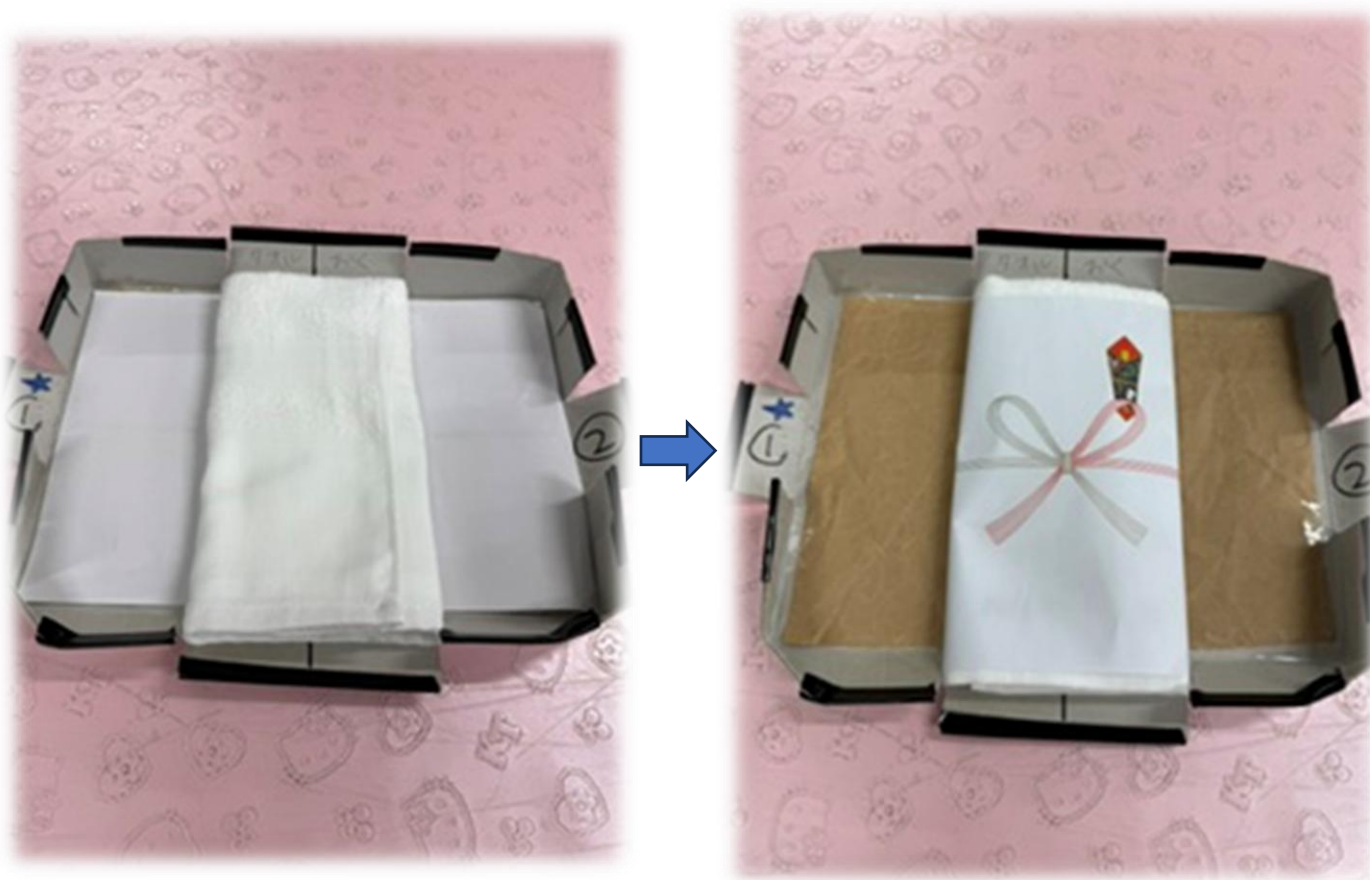
重度障がい者支援の取り組み

現在、就労継続支援B型事業の重度障がいの利用者は46名中10名で、タオル加工作業に取り組んでいます。

タオル加工にも工程があり、一人で全ての工程をするのではなく、「たたむ・のしを巻いて袋に入れる・テープを貼る・束ねる」に分けてそれぞれ取り組んでもらっています。
繰り返しの作業が得意であるという特性を活かして生産性の向上に努めています。



タオルを束ねる際の補助具



のし巻きの補助具

飽きないための取り組み

行事が豊富！！

1月…互礼会・初詣

2月…新春の集いまたは日帰り旅行、社会体験学習

3月…班外出

4月…花見

5月…班外出、ものづくり体験

8月…水遊びイベント

9月…ささゆりまつり

10月…ウォーキング大会

11月…デイキャンプ

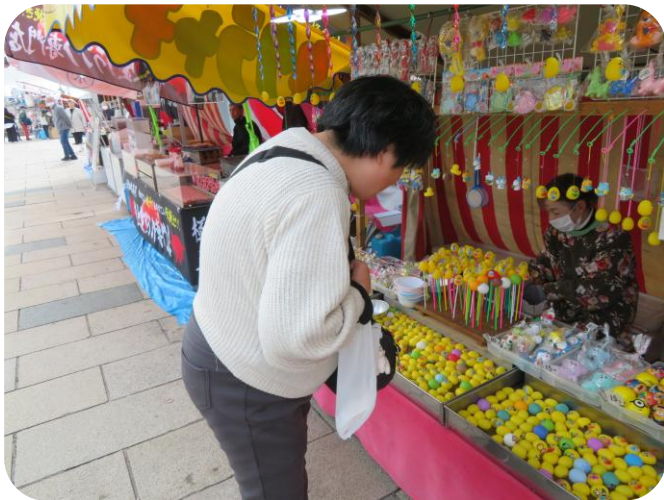
12月…クリスマス会、焼き芋イベント



クリスマス会



デイキャンプ



お花見



班外出

その他、毎週火曜日はカラオケの日を設けており、D A Mの機械を導入し、昼休憩はカラオケで盛り上がっています。

また、毎月第3金曜日にはクラブ活動をしており、卓球・テニスクラブ、ウォーキングクラブ、音楽クラブ、図工クラブに所属されています。

一部クラブには所属せずに作業に取り組まれる方もいます。

第2、4土曜日の午後には余暇活動といって、カラオケやD V D鑑賞等でリフレッシュする機会も取り入れています。

飽きないための取り組み2

声掛けのコミュニケーションについても、タイミングを見計らって、気を削がないように配慮しています。

少しの声掛けでモチベーションアップに繋がったり、集中力アップに繋がります。

午後からは眠気と戦う人も多く、その際にはあえて会話を交わすことで覚醒し、作業に集中することができています。

これからの課題

現状ご利用者の平均年齢は47歳となっています。
年々上がっていく平均年齢の中で、長年通所されていた方々が入所施設に入られたり、入院されたりすることで、毎年利用者数が減少してきています。
また、年齢を重ねるごとに作業効率の低下にも繋がります。
高齢化する中で、継続して利用していただける方法と若い層の新規ご利用者の獲得が課題となっています。

表彰を受けて

ご利用者からは

「吉村さんに会ってきたん?!」

「吉村さんどんなんやったん??」等…

吉村知事への興味しかありませんでした。

ご自身の頑張りが表彰に繋がったと捉えていない方が多く、

「みんなの頑張りのおかげで表彰されたんだよ。」と説明を
すると

「頑張ってよかったわ。」と意外とあっさりされていました。

最後に…

仕事が上手くできないところから上手くできるようになると、その人の自信になり、更に挑戦したいという向上心が湧いてきます。

その一連の流れを繰り返すことによって、「自分は役に立っている」という経験が積み重なり、それが働きがいになり、働くことの喜びに繋がると思っています。

働くことの喜びを感じてもらえるように関わっていくことが我々支援員の役割であり、働くを支えるということなんだと思います。